

科目群の編成

企業情報学部企業情報学科で開講されている授業科目は、大別すると教養科目と企業情報学科の特色に応じて配置された専門教育科目とに分けられる。

企業情報学部の履修体系(表)

2023 年度生

区 分		1年次	2 年次	3 年次	4 年次	必修	選択必修	選択Ⅰ	選択Ⅱ
教 養 科 目	導入科目	課題発見ゼミナールⅠ				4			
		課題発見ゼミナールⅡ				4			
		コンピュータ基礎 アカデミックライティング							
	論理と思考	選択必修〔最低 4 単位〕					4	8	
	身体と感性	選択必修〔最低 4 単位〕					4		
	地域と世界	選択必修〔最低 4 単位〕					4		
	歴史と未来	選択必修〔最低 4 単位〕					4		
	外国語科目	英語・中国語・ドイツ語・韓国語選択必修〔英語もしくは中国語4単位必修を含む最低8単位〕				4	4		
日本語(外国人留学生)				(10)					
計40 単位(42 単位)※2									
専 門 教 育 科 目	専門基礎 科目	必 修〔最低 4 単位〕					4	23※1 (21) ※2	
	専門共通 科目		選択必修〔最低 12 単位〕				12		
	クラスター科目 (経営・情報・デザイン)		経 営				16		
			情 報						
			デザイン						
	職業観養成 科目	選択必修〔最低 6 単位〕					6		
	プロジェクト型 科目		プロジェクト研究Ⅰ	プロジェクト研究Ⅱ	プロジェクト研究Ⅲ	24			
					卒業研究				
	関連科目	〔選 択〕							
計62 単位									
合計 125単位									

※1 選択Ⅱの 23 単位には単位互換による他大学での履修単位を含む。

※2 ()内は外国人留学生の取得単位を示す。

教養科目

長野大学における教養教育の理念は、全人的人間形成を主眼とする。

第一に、論理的で批判的な思考をもって知的判断力を発揮できるようになること。次に、主体的かつ調和的に地域・社会および世界と関われるようになること。そのうえで、世界の歴史と現在地を踏まえて未来を創造できるようになること。そのためには、健全な身体感覚と美的感性も伴った人間になること。これら 4 つの柱に加えて、あらゆる思考を根底で支える言語(外国語)の学修を加えて、これらの素養を調和的に身につけることをとおして全人的人間形成を図ることを教養教育で目指す。

導入科目

下記の科目は 1 年次に全員が履修しなければならない科目

導入科目として、「課題発見ゼミナールⅠ・Ⅱ」、および「コンピュータ基礎」「アカデミックライティング」がある。

「課題発見ゼミナールⅠ・Ⅱ」

「課題発見ゼミナールⅠ・Ⅱ」は、学生の関心から出発しながら、社会・人間の基本的・普遍的問題(公共的世界の問題)を捉えるようになることで「市民的判断力」の育成を目指す科目である。

「コンピュータ基礎」

この科目は、ウィンドウズの基本操作、ワードによる文章作成、エクセルなどによる資料の作成と整理、インターネットによる検索等のコンピュータの基礎的技術を学ぶ科目である。

「アカデミックライティング」

この科目では、意見と事実を分けて記述したり、先行研究を適切に引用しその出典情報を明記したり、無自覚な剽窃に陥ることを避けて自らの考えを根拠に基づいて論理的・客観的に記述するといった、レポートや論文を執筆する際に求められる最小限必要な技術や心構えの修得を目指す。

(1) 講義科目

講義科目は「論理と思考」「身体と感性」「地域と世界」「歴史と未来」の4つの科目群によって構成される。

【第1群 論理と思考】 体系づけられた合理的知識に基づき、論理的に、そしてときに批判精神と批判力を伴わせて、ものごとを考える。自然科学系領域においては、体系的な知識を身につけながら論理で説明できる考察力を養う。人文社会科学系領域においては、知識を踏まえた批判力をもって社会事象を深く考える姿勢を養う。

【第2群 地域と世界】 長野大学が位置する信州・上田をまずは地に足の着いたフィールドとし、自然・風土・文化・人の営みを学ぶことをとおして、地域を理解し愛着をもって地域の持続的発展を担う気概を醸成する。さらには、長野県を越えて社会や世界というもののあり方を普遍的に考究する意識を高める。

【第3群 歴史と未来】 グローバルな視野を持ち、文化的にも多様な人々と共生する意識を育てながら、自らが身を置く地域の固有の価値を理解して国際社会に発信する力を養う。そのためにも、自己と世界の行き越し方を歴史的に考察し、現在の立ち位置を知り、それらを踏まえてこれからの未来への道行きを構想する知恵を紡ぐ。

【第4群 身体と感性】 人間活動の基礎となる生命力と健康的な身体・精神を保持し、自然・社会事象への高い感受性を磨きながら、その生命身体感性を行動の原動力とする。生命活動を自己の身体と周囲の環境の両面から認識し、さらには文化・芸術も受け止めながら創造するような感性を磨く。

これらの科目群によって構成される多様な学問領域での学修によって、学生を取り巻く「いま・ここ」を相対化することを目指す。

(2) 外国語科目

外国語科目の教育目標は、コミュニケーションのための実践的な語学力を養成することと、諸外国の生活・社会・文化等に対する知識を身につけることである。

<外国語科目の特徴>

- ① 外国語科目には英語、中国語、ドイツ語、韓国語の4ヶ国語がある。
- ② 英語は「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語(講読)Ⅰ～Ⅵ」「英語(会話)Ⅰ～Ⅵ」の14科目、中国語は「中国語Ⅰ～Ⅳ」の4科目、ドイツ語、韓国語は「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語Ⅰ・Ⅱ」の2科目ずつ開講され、レベル別にクラスがわかれている。数字が大きいほどレベルが高いことを示している。
- ③ 英語は、自身に合ったレベルを選択すること。レベル選択の目安はガイダンスで周知する。
- ④ 中国語、ドイツ語、韓国語は必ずⅠから履修しなければならない。
- ⑤ 外国語は「英語(講読)」「英語(会話)」「中国語(聴解)」「中国語(作文)」を除きすべて週2回の授業である。

<英語の受講上の留意点>

- ① 英語のレベルは積み上げ方式である。例えば「英語(講読)Ⅰ」を修得した場合は、次に履修する英語はレベルを一つ上げて「英語(講読)Ⅱ」となり、「英語(講読)Ⅲ」を修得した場合は、「英語(講読)Ⅳ」となる。
- ② 英語の単位を修得できなかった場合は、次の学期、学年で再度同じレベルの英語を履修しなければならない。原則としてレベルを上げたり、下げたりすることはできない。ただし、申し出があり、大学が認めた場合はこの限りではない。
- ③ 「英語(講読)Ⅰa」や「英語(講読)Ⅲb」などアルファベットがついているものは、クラス名であって科目名ではない。科目名は「英語(講読)Ⅰ」「英語(講読)Ⅲ」のようにローマ数字がついている。

<中国語、ドイツ語、韓国語の受講上の留意点>

中国語、ドイツ語、韓国語は初学者を対象としている。したがって、まずⅠを履修し、次にⅡを受講する積み上げ方式である。Ⅰを単位修得せずに、Ⅱを履修することはできない。中国語のⅢ・Ⅳについても同様である。

<外国人留学生の履修上での留意点>

外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅳ」「日本事情基礎」の5科目、10単位を履修しなければならない。

- ① 「日本語」
原則として、1年次の前学期に「日本語Ⅰ」、後学期に「日本語Ⅱ」、2年次以降に「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」の4科目を履修する必要がある。なお、所属クラスは大学が指定する。
- ② 「日本事情基礎」
「日本事情基礎」は1年次の必修科目である。

専門教育科目

(1) 専門基礎科目

経営と情報とデザインの基本的な関わりと情報の基礎を理解し、企業や社会を学習フィールドとした課題発見能力を養成する科目群である。当科目群を履修することによって、専門分野に関する大まかな理解ができるようになり、専門分野への関心を持つことができる。

(2) 専門共通科目

経済、経営、デザイン、情報処理、数学、統計の基本的な知識とそれらを結びつける手法を習得する科目群である。当科目群を履修することによって、専門分野に関する基礎的知識を身に付けることができる。

(3) クラスター科目

「プロジェクト研究」を遂行する上で必要になる専門知識を得るための科目群である。学生の研究プロジェクトに応じて、3つの科目群(クラスター)の中から適切な科目履修をするように指導教員から指導を受ける。経営分野(経営・経済・地域／戦略・マネジメント・イノベーション(革新))・情報分野(システム・ネットワーク／ソフトウェア開発・システム運用)・デザイン分野(デザイン・グラフィック・プランニング(企画立案))からそれぞれ必要な専門科目を自覚的に選択し、課題発見・問題解決の糸口を探る。当科目群を履修することによって、各自の「プロジェクト研究」に直接必要となる専門分野に関する知識を身に付けることができる。また、研究に必要となる各種技術や判断力を磨くことができる。

経営分野科目群

情報技術を梃子とした企業と社会のイノベーション(革新)を学ぶための科目群である。企業や社会における問題を踏まえ、情報技術や情報メディアの果たす役割について学び、経営的な発想を身に付けることができる。イノベーションを推進・展開できる人材や、戦略的な組織運営ができる人材に必要な専門的知識を提供する。

情報分野科目群

最先端の情報通信テクノロジーを学ぶための科目群である。先端的な情報通信に関する技術や知識を踏まえ、ソフトウェア開発やシステム構築・システム運用などの知識を身に付けることができる。情報技術を社会で活用できる人材や企業活動に適合した情報システムを提案できる人材に必要な専門的知識を提供する。

デザイン分野科目群

独創的なプランニング(企画立案)や次世代型の情報表現(情報デザイン)を学ぶための科目群である。グラフィック・インターネットなどの情報表現・発信技術を学び、企業や社会のさまざまな要求に答えられるデザイン能力を身に付けることができる。デジタルメディアを駆使して企業価値を高める情報発信に携わる人材や企業において企画・広報活動に携わる人材に必要な専門的知識を提供する。

(4) プロジェクト型科目

現実の社会や組織体において何が問題であるかを考え、その問題を特定し、その具体的な解決策を探究する科目群である。企業での仕事は一言でいえば「問題解決」である。つまり企業や社会が求める人材は、克服すべき問題を特定できる「課題発見能力」とその解決ができる「問題解決能力」を身に付け、リーダーシップと行動力を持った人と言える。将来を見据えながら、学生が主体的に関わるプロジェクト研究によって、長い企業人生を送る上で不可欠となる課題発見・問題解決能力を育成する。当科目群を履修することによって、自分の研究テーマに関する関心がさらに高まり、問題解決に必要な諸能力、思考力・判断力・意欲・技術力・リーダーシップ・行動力を身に付けることができる。

「プロジェクト研究」は、2 年次に「プロジェクト研究Ⅰ」、3 年次に「プロジェクト研究Ⅱ」、4 年次に「プロジェクト研究Ⅲ」と順次履修することを原則とする。ただし、極めて例外的な扱いとして、特別な選考を経た上で 2 年次・3 年次・4 年次において「プロジェクト研究Ⅰ」「プロジェクト研究Ⅱ」「プロジェクト研究Ⅲ」の他にもう一科目「プロジェクト研究」の履修を許可することがある。その場合は「プロジェクト研究 A」～「プロジェクト研究 C」を履修することになる。

なお、プロジェクト研究では年度末に発表会が開催されるので、それにも参加すること。

(5) 職業観養成科目

社会人が持つべき仕事や職業に関する考え方を育成する科目群である。魅力的な職業人・企業人になるためには、大学入学初期から将来を見とおし職業について理解しておくことが不可欠である。低学年からのキャリア学習によって、しっかりとした職業観を持った上で自分自身のキャリアプランを立て、職業人に必要な諸能力を育成する。当科目群を履修することによって、社会に対する関心と就業に対する意欲が養え、同時に社会人として持つべき態度や思考力・判断力を身に付けることができる。